

## ティーチング・ポートフォリオ

史学科 高津 純也

(記入日： 2021年 9月 24日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

アジア史研究入門(1) (1年前期必修)、アジア史概説(1) (2年後期必修)、アジア史演習(1) (3年選択必修)、東アジア史 (3~4年後期選択必修) など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

日本を含む上位ブロックである東アジア世界の歴史文化社会について学び、また自ら調べ自ら考えることによって、現在および未来をよりよく生きるための教養、および社会で活躍するためのスキルを身につけることを目標とする。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

アジア史研究入門(1)においては、コロナ禍における授業のオンライン化に伴い、講義時間を短縮した分増加した課題提出の機会において、学生には知識を問うような課題や正解を求めるような課題ではなく、「なぜだと思うか」学生自身に想像させるような課題を与えた。これは、歴史事項についてその知識量を競うのではなくその意義や背景・影響などを考察するという歴史学の本質に馴

染み、高校の歴史の授業スタイルから思考法を転換することを促すという目的に基づく。アジア史演習(1)においては、関連する課題についてのレポート作成にあたり、有用な参考文献や関連資料を教員が示唆することで、レポートのレベル向上を図った。また漢文資料の読解にあたり、参加者相互で協力して進展させることを促した。

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

アジア史研究入門(1)においては、受講者のほとんどが、課題に対して何かを調べて回答するのではなく、自らの想像力に基づいて回答していることを確認できた（エビデンス 1）。また課題が上記のようなスタイルであったことは1年生にとって新鮮だったようで、好意的に受けとめられた（エビデンス 2）。アジア史演習(1)においては、自らの文献渉猟と担当教員の示唆とを材料にレポートを作成していることを確認できた（エビデンス 3）。漢文資料読解における相互協力については、授業前に参加者同士が訳文などについて話し合っている光景を目にしているが、具体的なエビデンスを提示できる状況には至っていない。

爾後の課題としたい。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

ゼミで講読する漢文資料の選択を見直す、レポート作成のために利用する参考文献をより多様化するように促す、などの工夫により、授業時間外の学習時間を増やし、かつ提出されるレポートの完成度を高めさせられるよう努力する。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. Teams「課題」（講評記入ののち提出者に返却）
2. 授業評価アンケート自由記述欄
3. ゼミ各回のレポート（発表・討論ののち教員保管）

(記入日:2021年 9月 15日)

- 1 教育の責任 (何をやっているか:担当科目)
  - 【学芸員資格課程科目】博物館概論、博物館経営論、博物館資料保存論、博物館資料論、博物館展示論、博物館教育論、博物館実習
  - 【史学科専門科目】考古学概論(1)、考古学概論(2)、日本史演習(1)、史資料演習
  - 【共通教育科目】考古学(隔年)
  
- 2 理念 (なぜやっているか:教育目標)
  - ・人文系の地域博物館の事例を中心に、社会における博物館の必要性に関する理念を理解する。また、博物館学芸員の基礎的な知識をとおして、学芸員の社会的役割について理解することを目標とする。
  - ・歴史学としての考古学独自の方法論を学び、学生自らが主体的に資料を収集し、確かな方法論に基づく分析をとおして、歴史的な考察を行うことができるようになることを目標とする。
  
- 3 方法 (どのようにやっているか:実践の工夫)
  - ・地域博物館をとおして、注目される活動の具体例を紹介するとともに、「地域文化の好循環」と「信頼される博物館」の二つの独自の具体的な指標を明示することによって、博物館の理想像の理解につなげる。
  - ・博物館学関係科目の資料は、自らの学芸員経験に基づき、原則として單元ごとに独自のテキストを作成し、チームスの投稿を使って事前に配布する。授業では、テキストの概要をパワーポイント(図やスライド)にして解説し、動画なども交えて学生の理解を図っている。
  - ・考古学概論では、考古学の方法の講義をとおして基礎を学ぶ。また、高校日本史教科書にも取り上げられている原始古代の著名な遺跡をとおして、日本の考古学史や各時代の著名な学説・論争などを紹介し、考古学への興味を喚起している。
  - ・日本史演習(1)では、前期にNHK放送大学のテキスト「新訂 考古学」の輪読と概要発表を行い、考古学独自の方法論の理解を深める。後期には、学生が古墳時代史の論文を選び通読させる。あるいは、考古学の自由な研究テーマを設定し考察させるなど、いずれも論文をまとめる方法で発表させることを実践している。
  
- 4 成果 (どうだったか:結果と評価)
  - ・博物館学関係科目では、小テストや期末テストによって理念や学芸員の基礎的な知識の理解を確認している。
  - ・不十分な知識での館務実習は望ましくないので、必要な点数に達しない学生は再履修としている。
  - ・考古学の方法については表面的な理解にとどまり、論文を読み込む中で、遺跡や遺物を資料として把握するのは難しいようである。
  
- 5 今後の目標 (これからどうするか)
  - ・博物館業務については、テキストやスライドを使ったパワーポイントだけでは理解が難しい所がある。実技や実体験で理解を深めることができるよう、学内博物館実習やバックヤードを含めた博物館見学の充実に努めたい。
  - ・学外授業として、博物館で考古資料の実物を見学したり、発掘調査の見学や体験

を可能な限り授業に取り込んで、遺跡や遺物に触れる機会をつくりたい。

- 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）
- 各教科のテキスト（教員作成）
  - テキスト解説のためのパワーポイント資料（教員作成）
  - 博物館学関係科目の小テストや課題（教員保管）
  - ゼミ学生の発表レジュメ（教員保管）

## ティーチング・ポートフォリオ

原田 晶子

(記入日： 2022年 2月 28日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

西洋史研究入門(2)、西洋史演習(1)、史資料演習、文献購読演習、外国女性史、文献購読(2)、ドイツ語で読む文化と社会

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

- ・ 西洋史に関する基礎的、専門的な知識を身に付けさせる
- ・ 学生が主体的に情報を獲得し、歴史的考察を行うことができるようにする
- ・ まずは外国語の構文を正確に理解し、そして文意を読み取る

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

- ・ 講義科目では、学生の理解度を確認するため、リアクションペーパーの記入を求め、次回の授業の冒頭で重要な質問に対して回答を行った。これにより講義科目ではあっても一方方向にならないよう工夫した。(西洋史研究入門(2)、外国女性史など)
- ・ 講義科目では、事前に Teams にて PowerPoint で作成した授業資料を配信することで、予習を促した。その際、重要な部分は空欄で配信し、授業時も集中するよう工夫した。(西洋史研究入門(2)、外国女性史など)
- ・ 最近の学生は視覚情報に強いので、図像史料 (図版や地図、年表) や映像資料を多用し、学生の授業理解が深まるよう工夫した。
- ・ 演習科目では、最初にレジユメのひな型と示し、報告の際に問題提起—議論—結論をきちんと設定させ、論理的に思考する訓練となるよう心がけた。
- ・ 演習科目では、全員の積極的な授業への参加を促すため、報告に対して必ず質問することを義務づけた。そしてそれらの質問に対しては、まずは報告者に答えさせることで、報告者の入念な事前準備を促した。(西洋史演習(1)、史資料演習、文献購読演習など)
- ・ 外国語文献を講読する授業では、テキストの文章をプロジェクターで映し、主語と動詞を色付けすることで明確にし、細かい文法説明を書き込んでいく形で授業を進めた。まずは構文を丁寧に説明し、正確に訳せるよう指導した。

その上で、専門用語の定訳や定義などを解説し、文章全体の意味を読み取るよう促した。(西洋史演習(1)、文献購読(2)、ドイツ語で読む文化と社会)

#### 4 成果（どうだったか：結果と評価）

- ・事前に Teams から授業資料を配信したことで、予習を行う学生が増え、学生の授業の理解の深化につながった。
- ・視聴覚資料を多用したことにより、学生が授業の内容により具体的なイメージを持てるようになり、学生の授業内容の理解度が上昇した。
- ・毎回リアクションペーパーを求めたことで、学生の授業の理解度を確認することができ、次回の授業で行った前回の授業内容の確認に役立てることができた。(リアクションペーパーにも、前回の授業で未消化だった内容が理解できたとの旨のコメントがよく見られた)
- ・上記の工夫により、授業アンケートの結果にみられた、学生の授業に対する理解度や総合的な満足度の高評価につながったと考える。
- ・授業の冒頭で、前回のリアクションペーパーにあった疑問点の代表的なものに答えることを繰り返した結果、教室内に質問しやすい雰囲気を作り出すことができ、授業後に学生が質問に来るようになったと思われる。
- ・半数以上の学生が英語やドイツ語の文章をかなり正確に訳せるようになった。

#### 5 今後の目標（これからどうするか）

- ・少数ではあったが、一部、授業内容を消化しきれない学生や明らかに基礎知識が不足している学生がいたので、フォローアップする機会を設けたい。

#### 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. 「西洋史研究入門(2)」の授業資料
2. 「外国女性史」の授業資料
3. 上記科目でのリアクションペーパー
4. 「文献購読(2)」、「ドイツ語で読む文化と社会」の授業資料
5. 講義科目や演習科目で配布した授業の史資料

## ティーチング・ポートフォリオ

辻 浩和

(記入日：2022 年 2月 28日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

基礎ゼミナール、日本史研究入門、日本史概説 (1)、文献講読 (1)、コミュニケーション能力基礎演習、文献講読演習、日本女性史 (2)、古文書学、日本史演習 (2)、史資料演習など

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

学生が、歴史的経緯や社会的背景に照らして現状の問題点を発見し、様々な種類の文献資料を的確に読解・分析することで、その解決に至る能力を身につけられるよう支援する。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

学生が文献から様々な「問い」を立てられるよう、段階的な工夫を行っている。基礎ゼミナールで「問い」の立て方を個別指導し、日本史研究入門 (2)・日本史概説 (1) ではコメントシートの匿名公表と教員からの講評によって発問の仕方を身につける。また日本史研究入門 (2)・日本史概説 (1) や日本女性史 (2) では、高校教科書との比較や、一般的なイメージと研究成果とのギャップを強調することによって学生に驚きと学問的な好奇心を抱かせるよう意識している。文献講読演習や日本史演習では、テキストの輪読や研究報告の中で、多様な観点から質問が出るよう質問カードを事前に準備し、討論の素材として活用させるほか、報告者にトピックの作成を義務付ける。文献講読 (1) や古文書学では史料をもとに考える癖を身につけられるよう、内容に関する質問を多数投げかけている。史資料演習では、個人面談の形で問題を掘り下げる方法を学んでもらう。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

コメントシート、質問カードの利用は、回を重ねるごとに、それまでの学習成果を踏まえた、より多様な質問が出るようになった。また、ほかの学生のコメントを目にすることによっていろいろな角度から考えられるようになったという学生からの感想を得た (エビデンス 1)。文献講読演習・日本史演習・史資料演習では、毎回の討論を通じて、他者の分析視点を取り入れたトピックが目立つようになった (エビデンス 2・3)。



5 今後の目標（これからどうするか）

様々な発問を構成する能力を身に着け、調査と結びつけてさらに深めていけるよう、小レポートなどを利用して段階的に修得させることをめざしたい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 日本史研究入門（2）・日本史概説（1）コメントシート（非公開）
- 2 文献講読演習・日本史演習・史資料演習ガイダンス資料（非公開）
- 3 学生作成のレジュメ（非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

(記入日：2021年 9月 30日／史学科 辻 明日香)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

基礎演習(1年前期必修科目、2単位)、コミュニケーション能力基礎演習・文献講読演習(2年前期・後期選択必修科目、各2単位)、アジア史演習(2) (3年通年選択必修科目、4単位)、史資料演習(4年通年必修科目、4単位)、アジア史研究入門(2) (1年後期必修科目、2単位)、アジア史概説(2) (2年前期必修科目、2単位)、西・南アジア史(3-4年後期選択必修科目、2単位)、歴史学(1)(共通教育科目、2単位)など。

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

各学年の演習においては、学生の読解力と論理的思考のトレーニングに力を入れている。自ら問題を具体的に設定し、網羅的に資料を収集し、それを報告するというプロセスを通じて、自ら調べ学ぶという態度を身につける機会を提供する。講義においては、学生が歴史と現代世界に対する広い視野と深い洞察力を養うことを目標としている。

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

オンライン授業においては、毎回 forms のアンケートに講義内容のまとめや疑問、発見を書くように指示し、良いものは次週に紹介した。対面の授業においても授業の内容をコメントシートに書かせることで授業の振り返りとまとめる力が向上するよう努めた。オンラインになった演習では teams のビデオを通じた発表や teams のチャットによる質疑応答にて学生が相互に学びあう環境を作るよう心がけた。

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

前期の授業(アジア史概説(2)、観光文化(ヨーロッパ)、観光歴史学)の課題やレポートにおいては、図書館を利用できないなか各自インターネットを利用して課題に取り組み、時間をかけ丁寧に調べた解答が多くみられた。授業を聞いてノートを取るだけになりがちな講義を、自分の関心に沿って調査したり報告したりする反転授業に近づけることができたのではないかと考えている。

5 今後の目標（これからどうするか）

オンライン授業も2年目となったため、他の教員の授業実践の方法からも学び、学生を飽きさせないような取り組みをしたい。また、学生については課題を提出したというところにとどまらず、授業の予習復習や調査を自ら積極的に取り組むよう促していきたい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

各授業の forms アンケート（エビデンス 1 非公開）

## ティーチング・ポートフォリオ

大西 克典

(記入日： 2022年 2月 21日)

### 1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

西洋史概説(2)、文献講読演習、西洋史演習(2)、史資料演習、歴史学(2)、ヨーロッパ中近世史

### 2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

- ・ 西洋史に関する基礎的な知識を身につけさせるため
- ・ 学生自らが情報を主体的に獲得し、歴史的な知識に裏打ちされた考察を行うことができるようにするため

### 3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

- ・ 学生の理解度や知識の定着度を測るために、Forms を用いた小テストやコメントシートの記入などを行った。(西洋史概説(2)、歴史学(2)など)
- ・ Teams 上に資料を上げ、講義資料をいつでも簡単に閲覧することができるようにした。(西洋史概説(2)、西洋史演習(2)など)
- ・ 講義科目では、講義を録画しておき、学生が講義内容を何度も聞き返すことができるように工夫した。(西洋史概説(2)、ヨーロッパ中近世史など)

### 4 成果 (どうだったか：結果と評価)

- ・ Teams 上に資料・動画を上げることで、時間や場所の制約を受けずに、学生がデータにアクセスでき、主体的な学習を促すことにある程度つながった。
- ・ しかし、授業に関する全ての情報(レジュメ・授業そのもの)をいつでも見直すことができるという安心感から、限られた時間の中で授業内容を理解しようとする姿勢が薄れてしまうという弊害もある。
- ・ 特に成績があまり振るわない学生においては、授業内容を咀嚼させ、学習・研究を促すための工夫が必要と思われる。

### 5 今後の目標 (これからどうするか)

- ・ Teams や Forms などを用いた授業資料の配布やアンケート・課題の設定を続ける一方、それらを用いた事前・事後学習へと導く工夫を行う必要がある。
- ・ 特に成績の振るわない学生や明らかに基礎知識が不足している学生については、フォローアップする機会を設けたい。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. 西洋史概説(2)講義資料
2. 歴史学(2)講義資料
3. 西洋史演習(2)資料
4. ヨーロッパ中・近世史講義資料
5. リアクションペーパー及び小テスト(西洋史概説(2)、歴史学(2)など)

# ティーチング・ポートフォリオ

学科：史学科 氏名：志村瑠璃

(記入日：2021年9月25日)

## 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

### 【図書館に関する専門教育科目】

図書館制度・経営論，図書館サービス概論，情報サービス論，  
図書館情報資源特論，図書・図書館史

### 【共通教育科目】

情報リテラシー，キャリア・プランニング IV(1)

## 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

図書館について学ぶことを通して、社会における共時的・通時的な知識の循環について知ることを目指している。知識の幅広さについて知ることと、情報の利用に関する実際的な技術を身につけることを目標としている。

## 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

図書館のサービスや取り組みの説明をした後には、学生自身が使える図書館と想定される我孫子市立図書館や千葉県立図書館などのサービスおよび取り組みを紹介するようにした。授業終了時には毎回リアクションペーパーとして感想や質問の提出を求め、次回の冒頭に感想の紹介や質問への回答をおこなった。また、全15回の折り返し時点である8回目頃に小テストを実施し、学生が学修内容を振り返る機会を設けた。

## 4 成果（どうだったか：結果と評価）

小テストを実施後のリアクションペーパーでは、小テストのための勉強が良い復習になったとの感想があり、小テストの実施は効果的であったと思われる。一方で、リアクションペーパーに一言しか書けない学生や授業内容の要約を書くに留まる学生もいた。

コロナウィルス感染拡大の影響もあることから、学修が図書館の利用といった実際的な側面に繋がったかの評価は現時点では保留したい。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

リアクションペーパーが授業の要約を書くだけのものにならないよう、授業内容と学生自身の図書館利用と照らし合わせるなどの視点を提示し、学生が図書館について考える機会としたい。

図書館に関わる科目の全体的なつながりを示し、体系的な学修を促したい。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・リアクションペーパー

# ティーチング・ポートフォリオ

学科：史学科 氏名：志村 瑠璃

(記入日：2022年2月15日)

## 1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

### 【図書館に関する専門教育科目】

図書館概論，図書館情報資源概論，情報資源組織演習(1)

情報サービス演習(1)，情報サービス演習(2)

### 【共通教育科目】

キャリア・プランニング III(2)，キャリア・プランニング IV(2)

## 2 理念（なぜやっているか：教育目標）

図書館について学ぶことを通して、社会における共時的・通時的な知識の循環について検討できるようになることを目指している。知識の幅広さについて知るとともに、情報の利用に関わる実際的な技術を身につけることを目標としている。

## 3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

全科目において、授業終了時には毎回リアクションペーパーとして感想や質問の提出を求め、次回の冒頭に感想の紹介や質問への回答をおこなった。

講義科目では学生が授業内容に注意を向け続けられるよう、穴埋め形式の配布資料を用いた。また、全15回の折り返し時点である第8回目頃には小テストを実施し、学生が学修内容を振り返る機会を設けた。

演習科目では実践的な技術を身につけることを重視し、課題に取り組む機会を多く設けた。課題には以前に取り組んだ課題と似た課題を織り交ぜることで、以前の間違いを見直した成果を活かせるようにした。他にも、第10回目以降頃には発展的な課題を取り入れることで、前半に学修した基礎を振り返る機会を作った。

## 4 成果（どうだったか：結果と評価）

いずれの科目においても、授業評価アンケートにおける教材の利用に関する



質問にて、全回答者から「効果的」あるいは「どちらかというとな効果的」との回答があった。講義科目の穴埋め形式の配布資料も、学生から一定の評価を得ていると考えられる。演習科目では、演習によっては回を重ねるごとに間違いが少なくなった学生も多く、復習や見直しを必要とする課題を設定することに意義があったと思われる。一方で、図書館におけるレファレンスサービスの演習に取り組む情報サービス演習(1)では、学生によって課題に対する成果物の出来に差が生じていることが気にかかる。

## 5 今後の目標（これからどうするか）

演習科目を学生が幅広い資料を実際に手に取る機会にするために、本学の図書館の所蔵資料の構成を私自身が十分に理解し、授業に実際の資料を効果的に取り入れたい。また、学修内容の実際を本学の図書館で確かめられるよう、特に講義科目において本学の図書館に関するトピックを盛り込みたい。

学生によって成果物の出来に差が見られた情報サービス演習(1)では、成果物へのフィードバックを充実させることで、学生が成果物を改善する方法に気づく機会を増やしたい。

## 6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ・リアクションペーパー
- ・演習科目の学生による成果物
- ・2021年度後期授業評価アンケート